

【抄録】

義歯セット時におけるチェアタイムを減らすための創意工夫

ヒロセ歯研 手島 哲久

(群馬県歯科技工士会 常務理事)

義歯の需要が多くなると予想されている昨今ではありますが、巷では義歯を作ることができる歯科技工士が減っていくのではと、危惧する声も聞かれます。

これはデジタルが普及すれば解決するのかといえば、そうではなくアナログで作ることができなければ義歯を製作することもできないわけで、特にセットにかかわることがない歯科技工士には、どこがポイントでセット時間を減らせるのかというようなノウハウを持ち合わせていないのが現状で、それをデジタルで製作したとしても、セットの現場では時間がかかってしまい、ストレスを増幅するようなことになるのではと思っています。

そこで今回は、私が取り組んできた方法を紹介しつつ、チェアタイムの減少につながるようなヒントになればと、デモを交えて研修できたらと思っています。

義歯受注から納品前までの流れ。

義歯デザイン 角度計測 ブロックアウト

重合 流し込み

掘り出し研磨 バフによるレーズ研磨

【抄録】

「最低限必要な機能を有した義歯とは？」を考察する

西田歯科技工所 西田 靖之

(三重県歯科技工士会)

37年前、歯科技工士養成所を卒業直後に故 市波治人先生に師事して以来、現在に至るまで師の教えである「来院時の顎位を極力変えない技工」、その追求に日々努力している。当時は、メタルボンドによる無計画な審美補綴によって体を壊してしまった患者さんに幾度となく出会い、咬合を習得するまでは顎位を大きく変える補綴装置は作れないと痛感する日々だった。

そのような時期に市波先生より「出来るようになるまでは、患者さんが後戻り可能な義歯を作りながら生計を立てその時に備えなさい」という教えをいただいた。

以来現在に至るまでその時のための準備は続いている。

2月12日の講演を終え2度目となる今回は、私が日々製作している最低限必要な機能を有した保険の義歯製作法から、基礎編と応用編を全部床義歯と部分床義歯に分けて紹介する。特に前回お伝え出来なかった、咬合平面が乱れているケースや上下顎の位置がずれているケースなどへの対応を紹介する。患者さんの声や担当医のコメントなどから「最低限必要な機能を有した義歯とは？」を皆さんと考えてみたいと思う。